

科目	循環器関連			
特定行為	(A) 一時的ペースメーカーの操作及び管理			
	(B) 一時的ペースメーカーリードの抜去			
	(C) 経皮的心肺補助装置の操作及び管理			
	(D) 大動脈内バルーンパンピングからの離脱を行うときの補助の頻度の調整			
時間数	20	講義14.5 演習3 試験2.5 実習		
概要	一時的ペースメーカー、経皮的心肺補助装置、大動脈内バルーンパンピング関連の基礎知識として、局所解剖、フィジカルアセスメント、病態と必要性について学ぶ。基礎知識をもとに、医師の指示のもと手順書により、身体所見と検査結果が医師から指示された病状の範囲にあることを確認して実施を判断する過程を学ぶ。			
	(A) 一時的ペースメーカーの操作及び管理 医師の指示の下、手順書により、身体所見（血圧、自脈とペースメーカーとの調和、動悸の有無、めまい、呼吸困難感等）及び検査結果（心電図モニター所見等）等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、ペースメーカーの操作及び管理を行う。			
	(B) 一時的ペースメーカーリードの抜去 医師の指示の下、手順書により、身体所見（血圧、自脈とペースメーカーとの調和、動悸の有無、めまい、呼吸困難感等）及び検査結果（心電図モニター所見等）等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、経静脈的に挿入され右心室内に留置されているリードを抜去する。抜去部は、縫合、結紮閉鎖又は閉塞性ドレッシング剤の貼付を行う。縫合糸で固定されている場合は抜糸を行う。			
	(C) 経皮的心肺補助装置の操作及び管理 医師の指示の下、手順書により、身体所見（挿入部の状態、末梢冷感の有無、尿量等）、血行動態（収縮期圧、肺動脈楔入圧（PCWP）、心係数（CI）、混合静脈血酸素飽和度（SvO2）、中心静脈圧（CVP）等）及び検査結果（活性化凝固時間（ACT）等）等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、経皮的心肺補助装置（PCPS）の操作及び管理を行う。			
	(D) 大動脈内バルーンパンピングからの離脱を行うときの補助の頻度の調整 医師の指示の下、手順書により、身体所見（胸部症状、呼吸困難感の有無、尿量等）及び血行動態（血圧、肺動脈楔入圧（PCWP）、混合静脈血酸素飽和度（SvO2）、心係数（CI）等）等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、大動脈内バルーンパンピング（IABP）離脱のための補助の頻度の調整を行う。			
目標	1. 循環器関連に含まれる特定行為を安全かつ確実に実践するための基礎的知識・技術を身につける			
	2. 医師の指示の下、手順書により、身体所見及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、実施の可否を判断できる。			
	3. 医師の指示の下、手順書により、医療面接、身体所見及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、一時的ペースメーカーの操作及び管理と抜去、経皮的心肺補助装置の操作及び管理、大動脈内バルーンパンピングからの離脱を行うときの補助の頻度の調整ができる。			
	4. 実施、報告の一連の流れが適切に行える。			
	5. 手順書案を作成し、自身の臨床経験や環境、患者に応じて再評価・最適化できる能力を養う			
研修方法	講義（放送授業）：eラーニングの受講 演習（面接授業）：ペーパーシミュレーションによるディスカッション・レポート提出 試験（筆記試験）：科目修了試験の実施（教室に集合しPC端末もしくは試験用紙を用いて行う）			
講師	別紙「指導者一覧」参照			
学ぶべき事項		内容	方法	時間
1	(共通) 循環器関連の基礎知識	一時的ペースメーカー、経皮的心肺補助装置、大動脈内バルーンパンピングに関する局所解剖	講義	0.5
2		一時的ペースメーカーを要する主要疾患の病態生理	講義	0.5
3		経皮的心肺補助装置、大動脈内バルーンパンピングを要する主要疾患の病態生理	講義	0.5
4		一時的ペースメーカーを要する主要疾患のフィジカルアセスメントと検査	講義	1
5		経皮的心肺補助装置、大動脈内バルーンパンピングを要する主要疾患のフィジカルアセスメントと検査	講義	1

6	(A) 一時的ペースメーカーの操作及び管理	一時的ペースメーカーの目的、適応と禁忌	講義	0.5
7		一時的ペースメーカーに伴うリスク	講義	0.5
8		ペースメーカーの種類とメカニズム	講義	0.5
9		ペースメーカーのモードの選択と適応および操作・管理方法	講義	0.5
10		患者・家族への指導及び教育	講義	0.5
11		一時的ペースメーカーの操作及び管理	演習	1
12	(B) 一時的ペースメーカーリードの抜去	一時的ペースメーカーリードの抜去の目的、適応と禁忌	講義	1
13		一時的ペースメーカーリードの抜去に伴うリスク	講義	0.75
14		一時的ペースメーカーリードの抜去の手技	講義	0.75
15		一時的ペースメーカーリードの抜去の方法と手技（一部ペーパーシミュレーション・アセスメント・判断を取り入れた手技を含む（面接授業））	講義	1
16	(C) 経皮的心肺補助装置の操作及び管理	経皮的な心肺補助装置の目的、適応と禁忌	講義	0.5
17		経皮的な心肺補助装置のメカニズムと生理学	講義	0.5
18		経皮的な心肺補助装置の合併症～有害事象とその対策～	講義	0.5
19		経皮的な心肺補助装置の導入および管理	講義	1
20		PCPSの操作および管理	演習	1
21	(D) 大動脈内バルーンパンピングからの離脱を行うときの補助の頻度の調整	大動脈内バルーンパンピングの目的、適応と禁忌	講義	0.5
22		大動脈内バルーンパンピングに伴うリスク	講義	0.5
23		大動脈内バルーンパンピングの操作及び管理の方法	講義	0.5
24		大動脈内バルーンパンピングからの離脱のための補助の頻度の調整の適応と禁忌、リスク	講義	0.5
25		大動脈内バルーンパンピングからの離脱の操作及び管理の方法	講義	0.5
26		IABPからの離脱を行う時の補助の頻度の調整	演習	1
27	科目修了試験		試験	2.5
28	実習	(A)一時的ペースメーカーの操作及び管理5症例		
		(B)一時的ペースメーカーリード抜去5症例		
		(C) 経皮的な心肺補助装置の操作及び管理5症例		
		(D) 大動脈内バルーンパンピングからの離脱を行うときの補助の頻度の調整5症例		
評価	講義	全講義受講・確認テスト100%		
	演習	80%以上		
	試験	90%以上		
	実習	各症例60%以上：評価表とレポート		

科目	心嚢ドレーン管理関連			
特定行為	心嚢ドレーンの抜去			
時間数	9	講義7 試験1 実習		
概要	心嚢ドレーン管理関連の基礎知識として、心嚢に関する局所解剖、フィジカルアセスメント、心嚢ドレーンが必要な病態について学ぶ。基礎知識をもとに、医師の指示のもと手順書により、身体所見（排液の性状や量、挿入部の状態、心タンポナーデ症状の有無等）及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、手術後の出血等の確認や液体等の貯留を予防するために挿入されている状況又は患者の病態が長期にわたって管理され安定している状況において、心嚢部へ挿入・留置されているドレーンを抜去する方法を学ぶ。抜去部は、縫合、結紮閉鎖又は閉塞性ドレッシング剤の貼付を行う。縫合糸で固定されている場合は抜糸を行う。			
目標	1.心嚢ドレーン管理関連の特定行為を安全かつ確実に実践するための基礎的知識・技術を身につける 2. 医師の指示の下、手順書により、身体所見及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、「心嚢ドレーンの抜去」の実施の判断、実施、報告の一連の流れを適切に行えるようになる 3. 手順書の案を作成し、自身の臨床経験や環境、患者に応じて再評価・最適化できる能力を養う			
研修方法	講義（放送授業）：eラーニングの受講 演習（面接授業）：ペーパーシミュレーションによるディスカッション・レポート提出 試験（筆記試験）：科目修了試験の実施（教室に集合しPC端末もしくは試験用紙を用いて行う）			
講師	別紙「指導者一覧」参照			
学ぶべき事項	内容		方法	時間
1	(共通) 心嚢ドレーン管理関連の基礎知識	心嚢ドレナージに関する局所解剖・画像とドレナージの種類	講義	0.5
2		心嚢ドレナージを要する主要疾患の病態生理	講義	1
3		心嚢貯留に関するフィジカルアセスメントと検査	講義	1
4		心嚢ドレナージの目的、適応、禁忌、リスク	講義	1
5	心嚢ドレーンの抜去	心嚢ドレーンの抜去の目的、適応、禁忌	講義	1
6		心嚢ドレーンの抜去到に伴うリスク	講義	0.5
7		心嚢ドレーンの抜去の手技	講義	1
8		心嚢ドレーンの抜去の方法と手技（一部ペーパーシミュレーション・アセスメント・判断を取り入れた手技を含む（面接授業））	講義	1
9	科目修了試験		試験	1
10	実習	心嚢ドレーンの抜去 5症例		
評価	講義	全講義受講・確認テスト100%		
	試験	90%以上		
	実習	各症例60%以上：評価表とレポート		

科目	動脈血液ガス分析関連				
特定行為	(A) 直接動脈穿刺法による採血				
	(B) 橈骨動脈ラインの確保				
時間数	14	講義11.5 試験1.5 実技試験 (OSCE) 1 実習			
概要	動脈血液ガス分析関連の基礎知識として、動脈穿刺法に関する局所解剖、フィジカルアセスメント、動脈血液が必要な検査と病態について学ぶ。基礎知識をもとに、医師の指示のもと手順書により、身体所見と検査結果が医師から指示された病状の範囲にあることを確認して実施を判断する過程及び直接動脈穿刺法、橈骨動脈ライン確保の手技を学ぶ。				
目標	1. 動脈血液ガス分析関連の特定行為を安全かつ確実に実践するための基礎的知識・技術を身につける 2. 医師の指示の下、手順書により、身体所見及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、「直接動脈穿刺法による採血」の実施の判断、実施、報告の一連の流れを適切に行えるようになる 3. 医師の指示の下、手順書により、身体所見及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、「橈骨動脈ラインの確保」の実施の判断、実施、報告の一連の流れを適切に行えるようになる 4. 手順書の案を作成し、自身の臨床経験や環境、患者に応じて再評価・最適化できる能力を養う				
研修方法	講義（放送授業）：eラーニングの受講 演習（面接授業）：ペーパーシミュレーションによるディスカッション・レポート提出 試験（筆記試験）：科目修了試験の実施（教室に集合しPC端末もしくは試験用紙を用いて行う）				
講師	別紙「指導者一覧」参照				
学ぶべき事項	内容	方法	時間		
1	動脈血液ガス分析とは	講義	0.5		
2	動脈穿刺法に関する局所解剖、生理、フィジカルアセスメント	講義	1		
3	(共通) 動脈血液ガス分析関連の基礎知識	超音波検査による動脈と静脈の見分け方	講義	0.5	
4		動脈血採取が必要となる状況、検査	講義	0.5	
5		動脈血液ガス分析が必要となる主要疾患とその病態	講義	1	
6		動脈血液ガス分析の評価	講義	1	
7		(A) 直接動脈穿刺法による採血	直接動脈穿刺法による採血の目的、適応と禁忌	講義	0.5
8			穿刺部位と穿刺に伴うリスク	講義	0.5
9	患者に適した穿刺部位の選択		講義	0.5	
10	直接動脈穿刺法による採血の手技（一部ペーパーシミュレーション・アセスメント・判断を取り入れた手技を含む（面接授業））		講義	2	
11	直接動脈穿刺法による採血の手技		OSCE	0.5	
12	(B) 橈骨動脈ラインの確保	動脈ラインの確保の目的、適応と禁忌	講義	0.5	
13		穿刺部位と穿刺及び留置に伴うリスク	講義	0.5	
14		患者に適した穿刺及び留置部位の選択	講義	0.5	
15		橈骨動脈ラインの確保の手技（一部ペーパーシミュレーション・アセスメント・判断を取り入れた手技を含む（面接授業））	講義	2	
16		橈骨動脈ラインの確保の手技	OSCE	0.5	
17	科目修了試験		試験	1.5	
18	実習	(A) 直接動脈穿刺法による採血5症例			
		(B) 橈骨動脈ライン確保5症例			
評価	講義	全講義受講・確認テスト100%			
	試験	90%以上			
	OSCE	総合点4以上			
	実習	各症例60%以上：評価表とレポート			

科目	透析管理関連			
特定行為	急性血液浄化療法における血液透析器又は血液透析濾過器の操作及び管理			
時間数	11	講義7 演習3 試験1 実習		
概要	透析の必要性、目的、方法を理解し、かつ安全に透析管理を実践するための基本的な知識を養う。 医師の指示の下、手順書により、身体所見（血圧、体重の変化、心電図モニター所見等）、検査結果（血液ガス分析、血中尿素窒素（BUN）、カリウム値等）及び循環動態等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、急性血液浄化療法における血液透析器又は、血液濾過装置の操作及び管理を学ぶ。			
目標	1. 透析管理関連の特定行為を安全かつ確実に実践するための基礎的知識・技術を身につける 2. 医師の指示の下、手順書により、身体所見、術後経過、検査結果等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、「急性血液浄化療法における血液透析器又は血液透析濾過器の 操作及び管理」の実施の判断、実施、報告の一連の流れを適切に行えるようになる 3. 手順書の案を作成し、自身の臨床経験や環境、患者に応じて再評価・最適化できる能力を養う			
研修方法	講義（放送授業）：eラーニングの受講 演習（面接授業）：ペーパーシミュレーションによるディスカッション・レポート提出 試験（筆記試験）：科目修了試験の実施（教室に集めしPC端末もしくは試験用紙を用いて行う）			
講師	別紙「指導者一覧」参照			
	学ぶべき事項	内容	方法	時間
1	(共通) 透析管理関連の基礎知識	血液透析器及び血液透析濾過器のメカニズムと種類、構造	講義	1
2		血液浄化法の選択と適応	講義	0.5
3		血液透析器及び血液透析濾過器の操作及び管理の方法	講義	1
4		血液透析および血液濾過透析の方法の選択と適応	演習	1
5	急性血液浄化療法における血液透析器又は血液透析濾過器の操作及び管理	急性血液浄化療法の総論と局所解剖・生理	講義	0.5
6		急性血液浄化療法を要する主要疾患の病態生理	講義	1
7		急性血液浄化療法を要する主要疾患のフィジカルアセスメントと検査	講義	1
8		急性血液浄化療法における透析の目的、適応、禁忌	講義	1
9		急性血液浄化療法に伴うリスク	講義	1
10		急性血液浄化療法の導入と管理	演習	1
11		急性血液浄化療法における血液透析（濾過）器の操作及び管理	演習	1
12	科目修了試験		試験	1
13	実習	急性血液浄化療法における血液透析器又は血液透析濾過器の操作及び管理 5症例		
評価	講義	全講義受講・確認テスト100%		
	演習	80%以上		
	試験	90%以上		
	実習	各症例60%以上：評価表とレポート		

科目	感染に係る薬剤投与関連		
特定行為	感染徴候がある者に対する薬剤の臨時的投与		
時間数	29	講義21 演習6 試験2 実習	
概要	感染徴候時の病態生理や主要疾患の特徴を理解し、感染に係る薬剤投与に関連する基本的な知識について学ぶ。基礎知識をもとに、医師の指示のもと手順書により、身体所見と検査結果が医師から指示された病状の範囲にあることを確認して安全な薬剤調整を実施する判断過程を学ぶ。		
目標	1. 感染に係る薬剤投与関連の特定行為を安全かつ確実に実践するための基礎的知識・技術を身につける 2. 医師の指示の下、手順書により、身体所見及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、「感染徴候がある者に対する薬剤の臨時的投与」の実施の判断、実施、報告の一連の流れを適切に行えるようになる 3. 手順書の案を作成し、自身の臨床経験や環境、患者に応じて再評価・最適化できる能力を養う		
研修方法	講義（放送授業）：eラーニングの受講 演習（面接授業）：ペーパーシミュレーションによるディスカッション・レポート提出 試験（筆記試験）：科目修了試験の実施（教室に集合しPC端末もしくは試験用紙を用いて行う）		
講師	別紙「指導者一覧」参照		
学ぶべき事項	内容	方法	時間
1	感染症の病態生理と感染症診療を始めるにあたって	講義	1
2	感染予防策の基本～もう一度しっかり理解しよう～	講義	1.5
3	感染症の主要徴候～主要症候と主要疾患～	講義	1
4	感染症の診断概論と検査	講義	1
5	主要感染症のアセスメント、診断、管理（呼吸器、気道）	講義	1
6	主要感染症のアセスメント、管理（尿路カテーテル）	講義	1
7	（共通）感染に係る薬剤投与関連の基礎知識 主要感染症のアセスメント、診断、管理（消化管・食中毒・CDI）	講義	1
8	主要感染症のアセスメント、診断、管理（皮膚軟部組織）	講義	1
9	主要感染症のアセスメント、診断、管理（感染性心内膜炎）	講義	0.5
10	主要感染症のアセスメント、診断、管理（周術期）	講義	1
11	主要感染症のアセスメント、診断、管理（血管カテーテル）	講義	1
12	主要感染症のアセスメント、診断、管理（呼吸器）	演習	1
13	主要感染症のアセスメント、診断、管理（CAUTI）	演習	1
14	主要感染症のアセスメント、診断、管理（血管カテーテル）	演習	1
15	感染症治療の総論	講義	1
16	抗微生物薬の種類と臨床薬理（抗菌薬）	講義	1
17	抗微生物薬の種類と臨床薬理（抗真菌薬、抗ウイルス薬、ワクチン）	講義	1.5
18	各種抗菌化学療法薬の適応と、病態別の抗菌化学療法薬使用の考え方	講義	1
19	各種抗菌化学療法薬の副作用と薬物相互作用	講義	1
20	感染徴候がある者に対する薬剤の臨時的投与 感染徴候に対する他の薬剤～種類、薬理、適応、副作用、使用方法～	講義	1
21	病態に応じた患者に対する薬剤投与の判断基準	講義	1
22	病態に応じた抗菌薬の治療（症例検討）	講義	1
23	感染徴候がある者に対する薬剤投与のリスクと適正使用	講義	0.5
24	特殊病態下の感染症患者に対する感染症治療の考え方	講義	1

25		病態に応じた感染徴候がある者に対する薬剤投与の判断基準：気道感染症	演習	1
26		病態に応じた感染徴候がある者に対する薬剤投与の判断基準：尿路感染症	演習	1
27		発熱性好中球減少症患者に対する薬剤投与の判断基準：日和見感染症	演習	1
28	科目修了試験		試験	2
29	実習	感染徴候がある者に対する薬剤の臨時の投与 5症例		
評価	講義	全講義受講・確認テスト100%		
	演習	80%以上		
	試験	90%以上		
	実習	各症例60%以上：評価表とレポート		

科目	循環動態に係る薬剤投与関連			
特定行為	(A) 持続点滴中のカテコラミンの投与量の調整			
	(B) 持続点滴中のナトリウム、カリウム又はクロールの投与量の調整			
	(C) 持続点滴中の降圧剤の投与量の調整			
	(D) 持続点滴中の糖質輸液又は電解質輸液の投与量の調整			
	(E) 持続点滴中の利尿剤の投与量の調整			
時間数	28	講義18 演習6.5 試験3.5 実習		
概要	循環動態に係る薬剤投与に関連する基本的な知識について学ぶ。基礎知識をもとに、医師の指示のもと手順書により、身体所見と検査結果が医師から指示された病状の範囲にあることを確認して安全な薬剤調整を実施する判断過程を学ぶ。			
目標	1. 循環動態に係る薬剤投与関連の特定行為を安全かつ確実に実践するための基礎的知識・技術を身につける 2. 医師の指示の下、手順書により、身体所見、血行動態及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、「持続点滴中のカテコラミンの投与量の調整」の実施の判断、実施、報告の一連の流れを適切に行えるようになる 3. 医師の指示の下、手順書により、身体所見及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、「持続点滴中のナトリウム、カリウム又はクロールの投与量の調整」の実施の判断、実施、報告の一連の流れを適切に行えるようになる 4. 医師の指示の下、手順書により、身体所見及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、「持続点滴中の降圧剤の投与量の調整」の実施の判断、実施、報告の一連の流れを適切に行えるようになる 5. 医師の指示の下、手順書により、身体所見等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、「持続点滴中の糖質輸液又は電解質輸液の投与量の調整」の実施の判断、実施、報告の一連の流れを適切に行えるようになる 6. 医師の指示の下、手順書により、身体所見及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、「持続点滴中の利尿剤の投与量の調整」の実施の判断、実施、報告の一連の流れを適切に行えるようになる 7. 手順書の案を作成し、自身の臨床経験や環境、患者に応じて再評価・最適化できる能力を養う			
研修方法	講義（放送授業）：eラーニングの受講 演習（面接授業）：ペーパーシミュレーションによるディスカッション・レポート提出 試験（筆記試験）：科目修了試験の実施（教室に集合しPC端末もしくは試験用紙を用いて行う）			
講師	別紙「指導者一覧」参照			
	学ぶべき事項	内容	方法	時間
	(共通) 循環動態に係る薬剤投与関連の基礎知識	循環動態に関する局所解剖と生理	講義	0.75
		循環動態に関する主要症候	講義	0.5
		循環動態の薬物療法を必要とする主要疾患の病態生理	講義	1
		循環動態の薬物療法を必要とする主要疾患のフィジカルアセスメントと検査	講義	1
		輸液療法の目的と種類	講義	0.5
		病態に応じた輸液療法の適応と禁忌	講義	1
		輸液時に必要な検査	講義	0.5
		輸液療法の計画	講義	0.75
		循環動態が不安定な患者のアセスメントと薬物療法の計画	演習	1

10	(A) 持続点滴中のカテコラミンの投与量の調整	カテコラミン製剤の種類と臨床薬理	講義	0.5
11		カテコラミン製剤の適応と使用方法	講義	1
12		病態に応じたカテコラミンの投与量の調整および副作用と調整とリスク	講義	1
13		病態に応じたカテコラミンの投与量の調整の判断基準	演習	1
14	(B) 持続点滴中のナトリウム、カリウム又はクロールの投与量の調整	持続点滴によるナトリウム、カリウム、クロールの臨床薬理	講義	0.5
15		持続点滴によるナトリウム、クロールの適応、使用方法、副作用、調整の判断基準とリスク	講義	1
16		持続点滴によるカリウムの適応、使用方法、副作用、調整の判断基準とリスク	講義	1
17		病態に応じた持続点滴によるナトリウム、カリウム又はクロールの投与の調整の判断基準	演習	1
18	(C) 持続点滴中の降圧剤の投与量の調整	降圧薬の種類と臨床薬理	講義	0.5
19		各種降圧薬の適応、使用方法、副作用	講義	1
20		病態に応じた降圧薬の投与量の調整の判断基準とリスク	講義	1
21		病態に応じた降圧薬の投与量の調整の判断基準	演習	1
22	(D) 持続点滴中の糖質輸液又は電解質輸液の投与量の調整	糖質輸液、電解質輸液の種類と臨床薬理、適応と使用方法	講義	1
23		病態に応じた電解質輸液の調整（水分・電解質補給）	講義	1
24		病態に応じた糖質輸液の調整および輸液の副作用と調整のリスク	講義	0.5
25		病態に応じた糖質輸液、電解質輸液の調整の判断基準	演習	1
26	(E) 持続点滴中の利尿剤の投与量の調整	各種利尿薬の適応	講義	0.5
27		各種利尿薬の薬理作用と副作用、使用方法	講義	1
28		病態に応じた利尿薬の調整の判断基準とリスク	講義	0.5
29		病態に応じた利尿剤の投与量の調整の判断基準	演習	1.5
30	科目修了試験		試験	3.5
31	実習	循環動態に係る薬剤の投与量の調整 各5症例		
評価	講義	全講義受講・確認テスト100%		
	演習	80%以上		
	試験	90%以上		
	実習	各症例60%以上：評価表とレポート		